

埼玉県羽生市教育委員会

実践校：羽生市立東中学校（全校児童生徒数：377人、実践研究の対象：全学年377人）

①実践研究の趣旨・目的

羽生市立東中学校の生徒は気優しく温和である反面、自信をもって自分の考えや意見を伝えることに消極的な傾向がある。そこで、生徒間での話し合い活動等「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とした特別活動に着目した。生徒の発意を生かした活動を展開していくことで、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら生徒自身が学校づくりに参画することを経験し、その指導の充実を図ることで、子供たちに主権者として求められる力の育成を目指す。

②実践内容

（１）教育委員会等での取組・工夫

本市では、市の教育行政重点施策に「学級経営の充実に向けた特別活動に関する研修」を位置付けており、市を挙げて特別活動の研究実践を奨励している。実践校を含む、市内の全小・中学校の教員を対象に、年数回の特別活動授業研究会を開催し、自治体として特別活動の活性化を図っている。本事業においては、実践校において研究授業や校内研修の指導・助言等を行った。

（２）実践校での取組・工夫

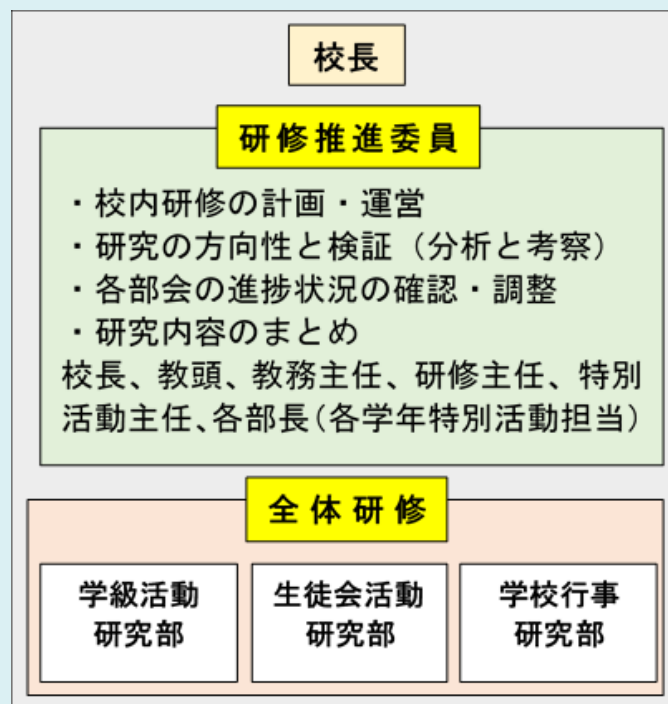
様々な利害が複雑に絡み合う政治・社会問題において、できるだけ多くの合意を形成し、現在と未来の社会を作るために政治に参画（意思決定プロセスに参加）することを目指して、「知り、考え、意見を持ち、論じ、決める」ことを学ぶことが主権者教育であることも含め、令和４年度から特別活動の学級活動(1)に力を入れ取り組んできた。

年度当初に、学級活動(1)における話し合い活動の実践経験が豊富な研究主任から、全教員に学級活動(1)の授業の仕方をサンプル提示する授業研究会を実施し、外部有識者からの指導・助言をいただいた。この授業を受け、５月には全学級担任が学校で統一した話し合い活動を実践した。また研修として「模擬学級会」を行い、学級活動(1)の指導法について全教員で理解を深めた。さらに、学校で指導案のひな型を統一するとともに、「学級会セット」を作成し、生徒が主体的に授業に取り組めるよう工夫した。

生徒会活動では、生徒の創意を取り入れながら、生徒会組織の見直しや、生徒主体の生徒集会の実施などを行い、活性化を図った。

学校行事では、全校または学年を単位として交流できるよう、「生徒の主体的な活動場面を必ず取り入れる」ということを教職員間で共通理解をし、取り組んだ。

（３）校内の実施体制・外部連携



埼玉県特別活動研究会・羽生市選挙管理委員会
羽生市議会事務局・学校運営協議会

③実践の具体事例【羽生市立東中学校第3学年】

【内容のまとめ】学級活動(1)で学んだ社会参画の経験を生かした生徒会活動・学校行事
【育成を目指す資質・能力】○諸課題の解決に向けて集団討論を通して合意形成に導く力 ○他者の意見を聴き尊重し、仲間とともに学び合う態度

時間	一連の活動と他教科との関連 ○主となるもの	
	内容項目・学習活動	関連付けた他教科等
4/中旬 1時間	学級活動(1)“学級会” 修学旅行の取組	国語 社会 ○総合的な学習の時間
5/10(金) 1時間	学級活動(1)“学級会” 学級目標を作ろう	国語 ○社会 特別の教科道徳
5/16(木) 1時間	生徒会活動 全校除草 本部役員・環境委員会	特別の教科道徳
5/24(金) 2時間	生徒会活動 令和6年度の活動計画	国語 ○社会 特別の教科道徳
9月上旬 1時間	学級活動(1)“学級会” 合唱コンクールの取組	国語 社会 ○音楽 特別の教科道徳
10/4(金) 2時間	生徒会本部役員選挙 立会演説会・模擬選挙	国語 ○社会 特別の教科道徳
11/8(金) 1時間	生徒会活動 学校保健 委員会 保健委員会	保健体育〔保健〕
1月中旬 1時間	学校運営協議会 生徒会本部役員の参加	国語 ○社会 特別の教科道徳

議題

**合唱コンクールを成功させよう！
(ア 学級や学校における生活上の諸課題の解決)**

授業の概要

<概要>
学級の課題に対し、合唱コンクールの取組を通して、学級全員で共通の課題意識をもって解決していきたいという願いから提案された議題である。話し合う内容を焦点化し、日常生活をイメージしながら理由や根拠をよりどころとして話し合えるようにした。安易に多数決に頼らず、一人一人の意見や考えを認め合いながら、より現実的・建設的な意見交換を行い、合意形成へとつなげることができた。事後の活動では、合意形成したことに基づき、多様な他者と協力しながら、人間関係や日常生活の改善を図ろうと行動する生徒の姿が見られた。学級会の実践を重ねていくことで、生徒一人一人が合意形成することの大切さを実感し、自らの学級をよりよくしていこうとする自主的・実践的な態度の育成につながっている。

<指導上の工夫>
○学校生活の充実と向上に参画することを促す取組
・授業形態はコの字型で、司会進行は輪番制。
・事前にアンケートを行い、参画意識を高める。
○他教科等との連携 音楽科



【一連の活動における評価】
・諸課題の解決に向けて集団討論を通して合意形成に導く力 ・他者の意見を聴き尊重し、仲間とともに学び合う態度

④取組の成果や効果・課題

埼玉県学力・学習状況調査（質問紙調査）の自己有用感に関する問い「自分には、よいところがあると思いますか」について、「あると思う」が令和5年度の34.5%から、令和6年度には41.6%と上昇した。さらに、「課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、自分の考えをしっかりと持てるようになったか」という問いに対して、「よくあった」が令和5年度の35.3%から、令和6年度には45.1%と上昇した。また、学級をよりよいものにしようしたり、生徒会活動や学校行事においても自ら進んで活動したりする生徒が増え、自分の言葉で思いを語ったり、進んでみんなのために働く生徒が増えたりするなど、生徒の姿に変化がみられた。これらの取組をいかに継承していくかが課題である。